

「土壌・地下水汚染の調査・予測・対策」 正誤表

14.6.17

ページ	行	誤	正
2	↓7	平成12年2月	平成12年12月
13	↑6	性生物	生成物
15	↓4	原流	原液
16	↓3	腐食	腐植
16	↑6	揮発性の	低揮発性の
20	↓6	pH4値台	pH値4台
43	表-2.7 ガスモニター法の定量の欄	不可	可
63	表-2.13 ①土壌の取扱い, 重金属および非金属	採取した土壌はガラス製容器等に収める。	採取した土壌はガラス製容器等に収める。 (ただし, フッ素およびホウ素についてはポリエチレン製容器)
63	表-2.13 ①土壌の取扱い, 揮発性有機化合物	採取した土壌はガラス製容器等に収める。	採取した土壌はガラス製容器等に空隙を残さないように収める。
65	表-2.14 対象物質の1段目		フッ素, ホウ素を追加
65	表-2.14 採取量および採取方法の3段目	瓶に空間が残らないように採取して…	瓶に空隙が残らないように採取して…
68	↓11	「土壌・地下水汚染に係る調査・対策運用基準」	「土壌・地下水汚染に係る調査・対策指針運用基準」
83	図-3.2 右側2段目の式	$\theta \rho v_x c + \partial(\theta \rho v_x c) / \partial x \Delta x$	$\theta \rho v_x c + \partial(\theta \rho v_x c) / \partial x \Delta x$
89	↑3 (式3.20)	$\rho_w g K_{ij}$	$\rho_w g K_{ij}$
91	↓6	比透過度 krp	比透過度 Krp
93	↓9 (式3.40)	S _{ot} の上にある2本のバー	S _{ot} の上にあるバーは1本
93	↑10	ここで, 観測井内のNAPL面の	「観測井内の」を削除
93	↑2	井戸内のNAPL存在量から地盤内での	「井戸内のNAPL存在量から」を削除
94	図-3.4のキャプション	各相の井戸内水面と地盤内の飽和度	各相の地盤内の飽和度
94	図-3.4のグラフ右側部分		グラフ横の付図を削除
126	図-4.1のキャプション	1フローポンプ法の概要図	フローポンプ法の概要図
127	表-4.4 単孔式の欄	Arir-Entry Permeameter	Air-Entry Permeameter
146	図-4.11	a砂, b, c砂	a, b, c
159	↓1	下方で	下方に
227	表-B.1 No. 29 ダイオキシン類の欄	3000pg - TEQ/g (平成15年より)	(平成15年より) を削除
228, 229	表-B.2, B.3	対象物質のシマジンとチオベンカルブとの間に野線がない。	対象物質のシマジンとチオベンカルブを隔てる野線を入れる。(測定方法はシマジンもチオベンカルブも同じなので野線はいらない)
229	表-B.3 対象物質のヒ素の測定方法	ジエチルジチオカルバミド吸光光度法	ジエチルジチオカルバミド酸銀吸光光度法
230	表-B.4	1,3-ジクロロプロペン	1,3-ジクロロプロペン